

2016年11月10日

関係者 各位

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル日本総代理店
株式会社ミキ・ツーリスト クルーズカンパニー
電話:03-5404-8813

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル LNG 客船 2 隻を発注

マイアミ 2016年10月10日 -- ロイヤル・カリビアン・クルーズ社/Royal Caribbean Cruises Ltd. (RCL)は液化天然ガス(以下 LNG)を使用する新客船を発注した。また、LNG の利用に加えて燃料電池システムも導入することで温室効果ガスの排出を大きく抑え、造船業に新しい革新をもたらす事となる。

ロイヤル・カリビアン・クルーズ社は今後造船する新しい LNG 客船を「アイコン」と称し、この新しいアイコン船の造船に独マイヤー・トゥルク社と合意し、第 1 船を 2022 年、第 2 船を 2024 年に引き渡す。同時に 2017 年には一部のオアシスクラス、今後数年にかけて造船するクアンタムクラスにも燃料電池システムを導入させる。

同社はこれまでも、船底の微細な気泡で摩擦抵抗を減らす技術や、排気をクリーンにする技術などを導入、燃費向上や排出物削減を実現してきた。

ロイヤル・カリビアン・クルーズ社会長兼 CEO のリチャードフェイン氏は「我々は常に環境を意識し、環境責任を考慮してきた。この新しいアイコン客船によって、排ガスがクリーンで環境に配慮したクルーズの実現に近づいている」とコメント、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社(ロイヤル・カリビアン・クルーズ社の傘下オペレーター)のプレジデント兼 CEO のマイケルベイリー氏は加えて「顧客は我々が常に新しい挑戦に取り組み、その挑戦を成し遂げていく事を期待している。新たなアイコン客船の省エネ導入によって海洋環境に安全性が高まる」と述べた。

また、今回の建造会社となるマイヤー・トゥルク社会長ジャンマイヤー氏は「オアシスクラス、セレブリティソルティス、クアンタムクラスやマインシフといった革新的な船を保有しているロイヤル・カリビアン・クルーズ社の新しい造船に携われた事を非常に光栄に思っています」と喜びを述べた。

LNG 燃料を導入した客船によって、今後の海洋産業の造船技術の発展をもたらすきっかけとなる事が期待される。フェイン氏によると「LNG 燃料客船が増加する事で、LNG 燃料船の受入れ体制に積極的な港の増加が見込まれる。そのことでクルーズ産業にかかわる供給業社にも新たなメリットが増える」と述べた。アイコン客船の造船には優先的に LNG 燃料の導入がされるが、従来の旅

程に既に組み込まれた港に合わせて従来の燃料油でも運航ができるように2元燃料を使えるシステムの導入を予定している。

また、ロイヤル・カリビアン・クルーズ社のデザイン責任者のハリー クロバーラ氏は新たな燃料技術システムにより革新的なデザイン船への可能性を述べた。更に同氏によると「ここ10年近く燃料電池システムには注目をしてきたが、近年の技術の進化や環境安全の関心の高さに伴い今後の次世代クルーズ造船にはLNG燃料の導入がふさわしいと判断した。また、アイコン客船は乗客定員規模で5,000人程度となる(詳細は未だ未定)、ただし造船には海洋用としての燃料電池システムの開発が必要とされ、普通の造船にかかる工程以上の期間を要する。」と述べている。

ロイヤル・カリビアン・クルーズ社は、ロイヤル・カリビアン・インターナショナル、セレブリティクルーズ、アザマラ・クラブ・クルーズ、プルマントゥール(49%合弁)、CDF クロワジエール・ド・フランス(49%合弁)、TUIクルーズ(50%合弁)を傘下にもつ世界有数のクルーズ会社。この6社を合わせて客船は全48隻(加えて11隻を発注中)の船は、世界7大陸490もの寄港地を訪れている。

ロイヤル・カリビアン・クルーズ社の詳しい情報:

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル www.royalcaribbean.com

セレブリティクルーズ www.celebritycruises.com

アザマラ・クラブ・クルーズ www.azamarclubcruises.com,

このニュースについて詳しく知りたい方は下記までご連絡下さい:

Carol Cabezas ccabezas@rccl.com

Media Contact: Rob Zeiger rzeiger@rccl.com